
地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第121号 会 報 1988年7月20日

目 次

I	第84回総会並びに講演会開催のお知らせ	1
II	第84回総会並びに講演会の会場案内	3
III	会長コラム	4
IV	第149回運営委員会報告	5
V	JGG編集委員会報告	6
VI	訃報	7
VII	新入会員等	7
VIII	大型レーダー国際学校(ISAR)国内旅費補助について	8
IX	日本学会会議だより	9
X	追記	10

I 第84回総会並びに講演会開催のお知らせ

第84回総会並びに講演会は金沢大学工学部のお世話により下記の通り開催されます。

1. 期間 昭和63年10月12日(水)～14日(金)
2. 会場 金沢大学工学部秀峯会館
3. 講演申込および予稿原稿送り先

★地球内部関係は

〒606 京都市左京区吉田二本松町

京都大学教養部地学教室 住友則彦 宛

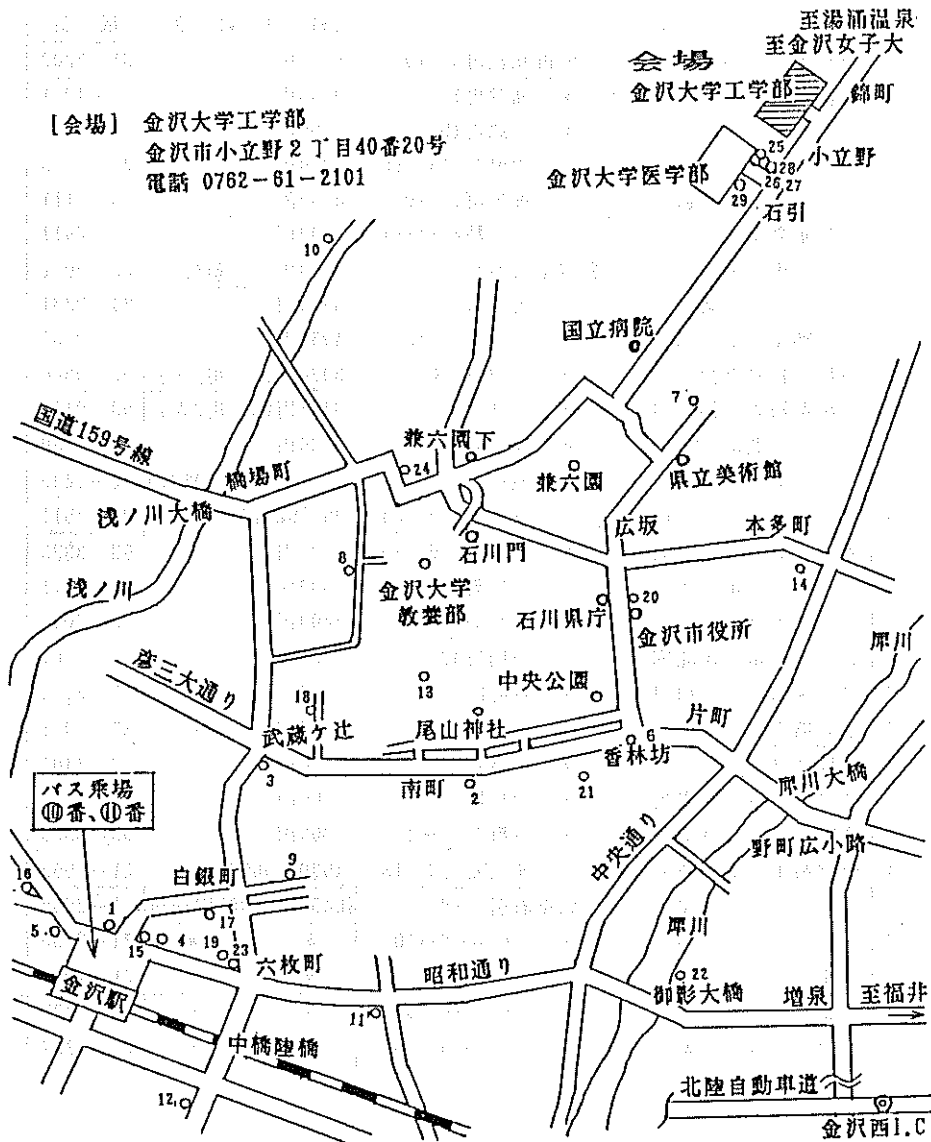
★地球外部関係は

〒442 豊川市穂の原3-13

4. 締切日は8月27日(土) 必着です。締切日以降に到着した申込は自動的に却下いたします。電話やFAXによる申込や遅延依頼は受け付けません。
5. 講演申込用紙への記入(氏名・所属・講演題目など)は、プログラム編集・印刷の都合上 必ず日本語でお願いいたします。なお外国人の氏名はアルファベット表記でもさしつかえありませんが、所属はできるだけ日本語で表示して下さい。
6. 非会員のみによる講演申込は受け付けません。筆頭著者(ファーストオーサー)になれるのは 1人1講演に限ります。ほぼ同じ内容の講演を、筆頭著者だけを取り替えて複数の講演として申し込むのはおやめ下さい。
7. 予稿原稿は、同封用紙にワープロで印刷されるか、あるいは黒色のインク、ボールペンなどで丁寧に手書きして下さい。ワープロで同封用紙に直接印刷するのが困難なときは、無理に張り付けたりせずに、規定の枠にあうようにB4用紙に鮮明にコピーなどされても結構です。
8. 予稿本文が日本語の場合は、枠に規定されているように 2段組にされると、印刷後読みやすくなります。
9. プログラム編集を迅速に行えるように、予稿原稿のコピーを必ず1部同封してお送り下さい。
10. 口頭発表の時間は15分(講演12分、質疑3分)以内です。
11. 限られた会期を有効に利用するために、ポスターセッションに特に分野を定めずに 約50件の発表を予定しておりますので、奮ってお申込下さい。ポスター発表・口頭発表の区分はご希望にできるだけ従いますが、プログラム構成の都合上ご希望の区分以外での発表をお願いすることがありますので、ご協力下さるようお願いいたします。
12. ポスターの口頭説明は、第2日の午前中に前半のセッションと、後半のセッションの2回に分かれて交代でおこなわれます(この間、口頭発表セッションはありません)。ただしポスターそのものをできるだけ長く掲示できるように、前半のセッションのポスター掲示可能期間を第1日から第2日の口頭説明終了時までとし、また後半のセッションはその後会期終了時までといたします。
13. ポスターの掲示板は、縦180cm、横90cmのベニヤ板1枚です。画鋲・セロテープなどは会場に用意いたします。
14. 田中館賞候補者推薦は8月25日(木)までに木村啓根会長宛必要書類(推薦書、被推薦者履歴書、業績リスト、関連論文別刷り等各11部)をお送り下さい。
15. 総会議題の申込は、9月10日(土)までに会長宛書面でお願いたします。

II 第84回総会ならびに講演会の会場案内

金沢大学工学部の案内図と交通機関を下に示します。



【会場】 金沢大学工学部
 金沢市小立野2丁目40番20号
 電話 0762-61-2101

* 地図内の番号は別紙宿泊所案内の所在地です

【交通】 北陸線、金沢駅下車、バス

⑩番乗場の「湯涌温泉」、「駒掃り」行き、

⑪番乗場の「金沢女子大」、「錦町」、「東部車庫」行き

に御乗車下さい。

いずれも「工学部前」下車、徒歩1分。(料金は100円)

タクシー、駅前・・・(会場)工学部

自家用車、北陸自動車道、金沢西I.C降りる・・・(会場)

工学部まで約30分、(工学部内、駐車可)

また、金沢市内の宿泊施設は以下の通りです。各自早目に申し込んで下さい。

金沢市内宿泊所案内（電話の市外番号は0762）（料金はシングル）

	番号	名 前	住 所	利 用 料 金	電 話
都 市 型 ホ テ ル	1	金沢都ホテル	金沢市此花町6-10	8800円	31-2202
	2	金沢ニューグランドH	〃 高岡町1-50	9950円	33-1311
	3	金沢スカイホテル	〃 武蔵町15-1	8750円	33-2233
	4	ホテルニュー金沢	〃 本町2-14-10	6350円	23-2255
	5	ホリディイン金沢	〃 掘川町1-10	8850円	23-1111
	6	金沢東急ホテル	〃 香林坊2-1-1	8000円～	31-2411
公 共 施 設	7	石川厚生年金会館	金沢市石引4-17-1	5100円～ 朝付	22-0011
	8	会 館 加 賀	〃 大手町2-32	3800円～	64-3261
	9	金沢郵便貯金会館	〃 玉川町9-15	4950円	33-3381
	10	石川県青年会館	〃 常盤町160	3960円(3人用/人)	52-0666
	11	石川県婦人生活会館	〃 三社町1-44	3400円(3人用/人)	63-0115
	12	公立学校共済 六華苑	〃 長田本町ハ98	4730円	22-4488
	13	私学共済 兼六荘	〃 尾山町6-40	4730/3300円(組員)	32-1239
	14	会 館 かなざわ	〃 下本田町5-24	和 3520円～	31-2511
ビ ジ ネ ス ホ テ ル	15	ガーデンホテル金沢	金沢市本町2-16-16	5500円	63-3333
	16	セントラルホテル	〃 掘川町4-1	5500円	63-5311
	17	オークボホテル	〃 本町2-20-3	4200円	33-3000
	18	ビジネスホテル北国	〃 十間町46	4500円	64-3201
	19	ビジネスホテル河口	〃 本町2-6-23	4200円	23-3155
	20	金沢第1ホテル	〃 広坂1-2-25	4400円、4800円	22-2011
	21	三陽ビジネスホテル	〃 香林坊2-3-19	4400円	63-2401
	22	ビジネスホテル厚生	〃 中村町31-23	3700円	43-1047
	23	北陸ビジネスホテル	〃 本町2-6-11	3800円	63-8525
	24	金沢第1ホテル兼六	〃 兼六元町3-18	4500～5000円	21-5555
会 場 周 辺 宿	25	河 原	金沢市石引1-8-13	和4500～5000円朝付	21-2956
	26	西 明	〃 〃 1-8-10	〃 〃	21-3736
	27	小 島	〃 〃 1-8-8	〃 〃	21-1939
	28	松 本	〃 〃 1-8-5	〃 〃	31-6273
	29	山 本 屋	〃 〃 1-5-18	〃 〃	21-4287

Ⅲ 会長コラム

前号の発行が予定より遅れたため今回の121号と接近してしまいました。

最初に悲しいニュースですが本学会の鎌田哲夫会員が7月3日急逝されました。別項Ⅵにご紹介しましたように当学会会員として長年空電異常現象のご研究で活躍され、又南極観測の第7次夏隊隊員としても参加され、その後極地研の特別事業にも大いに貢献されました。テニスなどもお好きで大変お元気な方であっただけに突然の悲報に驚かれた方々も多いと存じます。ご冥福を心よりお祈り致します。

前号で田中館先生及び田中館愛橋会のご紹介を致しましたが、去る6月中旬愛橋会から会長、事務局長らが物理学会、宇宙科学研、その他と同様当学会へも訪問され、田中館愛橋記念館設立についての協力が依頼されました。田中館先生についての古い資料等お持ちの方々は同会にご連絡頂けるとよろしいかと存じます。当学会からは田中館賞メダルを寄贈致しました。

A G Uから提案されている1990年 Western Pacific Geophysics Meeting については国内の他学会も協力姿勢を決められたところも増え、又財政的協力も地震学会では100万円程度を考慮しておられる由であります。当学会は会員規模は比較的小さいのですが、上記の Meetingへの参加者数はかなり多いと考えられますので、財政的にも他の学会並みの協力を考えることが必要かと思えます。次の金沢大学での総会ではおはかり致したいと考えています。

役員選挙内規改正については先号にも記載しましたが評議員、運営委員の選挙の方法について次回総会でなるべく多数のご賛同の得られる案を提案したいと考え運営委員会で検討しております。一方、今回提案は致しませんが会長についても同様な立候補制の導入が必要かと考えられます。その場合日本気象学会の理事の選挙でとられているように、立候補者の紹介に所信を加えて選挙広報に掲載するような案がよいのではないかと考えております。今後運営委員会でも検討を続けたいと思えますので、広く会員の皆様のご意見をお知らせ下さい。

最後に賛助会員の件ですが先般来、本学会の活動をご理解、ご援助頂けるよう広く企業の方々をお願いしてまいりましたが、お蔭様で日本電気、三菱重工、K D D、松下通信、富士通、川崎重工などから賛助会員として新規のお申込あるいは口数増のお申込を頂き大変感謝しております。これらのご援助により、本学会の活動を益々活発にしてゆきたいと思えます。

IV 第149回運営委員会報告

昭和63年6月30日第149回運営委員会が開催された。

- 報告事項
1. 会報120号発行について。
 2. 第83回大会の参加者数など：参加者数計339名、参加費合計331,500円及び予稿集売上げ604,000円であった。
 3. 賛助会員：会報120号の後、富士通(株)(2口)に入会して頂き、賛助会員は15社合計24口となった。

4. 田中館愛橋会：6月17日に二戸市の田中館愛橋会の丹野幸男会長らが当学会（学会事務センター）へ訪問され、田中館愛橋記念館設立のための協力依頼があった。

当学会の田中館賞メダル1個を愛橋会に寄贈した。

5. A G Uから申し入れの1990 Western Pacific Geophysical Meeting について国内の地震学会、測地学会、火山学会各会長よりそれぞれの学会が表記の国際会議に積極的に協力されることになった旨の連絡があった。

議事

1. 第84回総会ならびに講演会の準備の件

2. 昭和64年度科研費審査委員候補者推薦の件

3. 役員選挙内規改正案の件

4. 長谷川杯推薦候補者について

5. 1990年 Western Pacific Geophysical Meeting の件

6. 新入会員等

7. 外国会員会費の件

などが討議された。

V. J G G 編集委員会報告

前編集委員長力武先生をはじめ編集委員の皆様の永年にわたる献身的な御尽力によって、学会誌 J G G の出版も月刊誌としてようやく定着し、国際的な評価も次第に高くなってきておりますことを大変嬉しく思います。新規約に基づく新編集委員会におきましても更に一層 J G G の評価を高めるべく努力するつもりです。

国際学術誌の評価はもちろん掲載論文の質によって決まりますが、論文投稿から印刷までのスピードも重要な要素です。新編集委員会ではレフェリー及び印刷の手続きを一層早め、皆様方からの投稿論文が一日も速く印刷に回るよう最大限の努力を傾けるつもりです。既に皆様もお気づきかも知れませんが、現在、J G G 投稿論文の印刷までの時間は他誌に比べてもかなり短くなっております。会員の皆様の研究成果を世界に問うのが J G G の本来の任務です。良い論文を、編集委員会が対応に音を上げる程たくさん投稿して下さいようお願い申し上げます。

なお、テラ学術出版の御好意により、J G G 掲載論文について論文賞（主として若い研究者の海外研究会出席旅費の補助）の制度をつくることを現在編集委員会で検討中です。案がまとまり次第会報にて御連絡します。

また、4月の総会以降会長の委嘱により下記の方々に編集委員をお願いすること

になりました。

Dr. David R. Barraclough [任期 4 年]

(British Geological Survey)

Dr. Malcolm Johnston [任期 4 年]

(US Geological Survey)

Dr. F. E. M. Lilley [任期 2 年]

(The Australian National University)

Professor Ronald T. Merrill [任期 4 年]

(University of Washington)

(小口 高)

VI 訃報

鎌田哲夫 会員 (愛知技術短期大学教授)

鎌田哲夫会員 (愛知技術短期大学教授・電子工学科長) は去る昭和 63 年 7 月 3 日急性肝不全のため逝去されました。享年 66 歳。

同氏は昭和 20 年 9 月名古屋帝国大学工学部電気工学科を卒業され工学部助手に採用され、ついで昭和 24 年名古屋大学空電研究所の発足と共に同研究所に転じ、また同年助教授に昇任され、研究所の創設と発展に尽力されました。同氏は空電の発生頻度及び受信積分強度の研究を手がけられ、電離層・地表間導波管内を伝搬する空電積分強度の異常増大 (SEA) 現象の同定に成功するとともに、核爆発による SEA 現象を見出されました。ついで、VLF 電波の導波管伝搬、特に SPA 現象の研究を進展させられました。また、一時中断ののち再開された南極観測に第 7 次観測隊員として参加されました。以後、極域電磁放射の研究に専念されるかたわら、極地研究所の宙空専門委員としても活躍されました。昭和 60 年 3 月に空電研究所を定年退官されたのちは、愛知技術短期大学 (愛知県蒲郡市) の創立に参画され、昭和 62 年 4 月の開学以来、電子工学科長 (副学長) を勤められました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

VII 新入会員等

第 149 回運営委員会で次の 9 名の入会が承認されました。

貝沼昭司 (通総研)

Egeland A. ** (オスロ大)
山田悦久 * (京大理・地質)
申 起激 * (東海大海洋)
高橋雅紀 * (東北大理・地質)
兵藤博信 ** (トロント大地物)
澤田 晃 * (京大工・電II)
臼井英之 * (" ")
小嶋浩嗣 * (" 超高層)

*学生 **外国会員

また、次の3名の方の退会が確認されました。

森田恭弘、遠藤尚彦 *、藤井 崇 *

7月9日までに新規に賛助会員になっていただいた機関は下記の通りです。

富士通(株)通信・宇宙研究部門 (2口)

川崎重工(株)航空機技術部門 (2口)

この結果名誉会員6名、正会員577名(内学生68名)、外国会員52名、賛助会員16社(26口)となります。

Ⅷ 大型レーダー国際学校 (ISAR) 国内旅費補助について

会報第119号ですすでにお知らせしておりますが表記会合が本年11月24-28日の間京都大学超高層電波研究センターにより開催されます。参加予定者で国内旅費の一部補助を受けたい方は下記の通り書面(適当に作成して下さい)にて御申込み下さい。ただし予算上全員の方の御希望には沿えないこともありますのでその際は御容赦下さい。

記

1. 補助の額: 11月23-28日(5泊6日)の滞在費のみ50,600円
(ただし院生等の場合は40,000円になります。)
2. 人数 : 約20名
3. 記載事項: 氏名、所属機関名、官職、級号俸(院生の場合は専攻科名、学年)
4. 申込期日: 昭和63年9月30日(厳守)
5. 申込先 : 〒611 宇治市五ヶ庄

京都大学超高層電波研究センター

深尾昌一郎

IX 日本学術会議だより

日本学術会議は、4月20日から4月22日迄第104回総会を開催し、「国際間の科学技術協力と研究の自由について（声明）」を決議するとともに、4件の勧告・要望・見解を採択しました。「日本学術会議だよりNo. 9」には総会報告を中心として、以下のような記事が掲載されています。

- ・国際間の科学技術協力と研究の自由について（声明）

- －日米科学技術協力協定の改定に当たって－

- ・太陽地球系エネルギー国際共同研究計画（STEP）の実施について（勧告）

暗黒の宇宙空間に浮かぶ青いルビーのように光る地球が、我々にとってかけがえない惑星であることが、理解されるようになったのは、20世紀の科学研究の最大の成果の1つである。宇宙空間に浮かぶ我が惑星、地球には、太陽からの紫外線や太陽風プラズマが絶えず襲っていて、絶妙なエネルギーバランスを保ちつつ、地球の電磁圏や中間圏、成層圏を作っている。しかしこのシステムには未だ多くの謎が残されていて、この謎の理解は宇宙空間の基礎物理の理解とともに永続的な地球環境変化の理解の基礎ともなっている。したがって国際太陽地球系物理学・科学委員会（SCOSTEP）は、国際科学連合会議（ICSU）の承認を得て、太陽地球系エネルギー国際共同研究（Solar Terrestrial Energy Program: STEP）計画を立て、1990-1995年の6か年にわたりその実施を行うよう、各国に要請している。

本研究計画では、太陽から、地球成層圏にわたる、全領域について、それを一つのシステムにとらえ、そこに展開する電磁現象、プラズマ現象、及び化学現象について、現象の変動のみならず、エネルギー伝播の変化も合わせ、定量的に究明することを目指している。我が国でも本国際共同研究計画を実施すべく、今回、第104回日本学術会議総会において、政府に対する勧告が出された。

- ・「国立地図学博物館」（仮称）の設立について（勧告）

- ・大学等における学術諸分野の研究情報活動の推進について（要望）

- ・我が国の国際学術交流の在り方についての日本学術会議の見解

上記記事の詳細にご関心のある方は、当学会深尾運営委員までご連絡下さい。これらの件に関する御意見・お問い合わせ等がありましたら直接下記へご連絡下さい。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会（日本学術会議事務局庶務課）

Tel 03-403-6291

X 追記

運営委員会では学会会報を一層充実したものにするため努力しております。是非とも会員に役に立つ情報（シンポジウム、国際会議、案内等）、面白い記事、御意見、等の御寄稿をお願い致します。また、最近各大学で審査をパスした博士学位論文の論文名、氏名、大学名を深尾運営委員迄ご連絡下さい。この会報で会員の皆様にお知らせしたいと思えます。

学会役員的主要連絡先

会 長 〒 606 京都市左京区吉田本町
木 村 肇 根 京都大学工学部電気工学第二教室
Tel 075-751-2111 (内線) 5348
Tel & FAX 075-751-8201 直通

運営委員会
総務 〒 611 宇治市五ヶ庄
松 本 紘 京都大学超高層電波研究センター
Tel 0774-32-3111 (内線) 3332
Tel & FAX 0774-33-2532 直通

同 庶 務
深 尾 昌一郎 Tel 0774-32-3111 (内線) 3352
FAX 0774-31-8463 事務室

発 行 地球電磁気・地球惑星圏学会
〒 113 東京都文京区弥生 2-4-16
学会センタービル
(財)日本学会事務センター内
電 話 (03) 817-5801
ファックス (03) 817-5800